

張 準 相 司 祭 ・ 聖 ガ ブ リ エ ル 教 会 と 大 阪 教 区

戦後 80 周年記念講演会① 日本聖公会大阪教区宣教局主催

2025/10/25 大阪聖ヨハネ教会にて
ヨハネ 井田 泉（京都教区退職司祭）

1. はじめに——張準相（張本栄）司祭の長女・張聖子さんの言葉から
「出会い in 生野」1989.9.22～24
「私の父 張本栄は 10 歳で自分の国を失い、私は 10 歳の時に教会を失った。1941 年（昭和 16 年）12 月、戦争が始まった時のことです。」
2. 張準相氏の誕生（1900 年）とその時代
 - ・ 1910 日韓併合ニ関スル詔書「……朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ擧テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ 御名御璽 明治四十三年八月二十九日」
天皇の名によって韓国併合が行われた
 - ・ 当時の日本聖公会の一信徒の朝鮮観 『基督教週報』（当時の日本聖公会機関紙）
3. 青年時代
1916 年 メソジスト教会（監理教）で受洗
1917 年？ 単身渡日、吉村大次郎司祭と出会う／郡山中学校(奈良)に入学
1918 年 立教大学文学部予科に入学
1919 年 独立運動参加のため朝鮮に戻る 独立宣言ビラを配布、6 ヶ月間懲役
1920 年 立教大学に復学
1923 年 タッカー監督から堅信を受ける（推薦者・吉村大次郎長老）教名ヨハネ
4. 関東大震災と吉村大次郎司祭との出会い 1923 年
「もし、あなたをだれかが殺しにきたら、『この日本刀でまずわたしを殺してからにしろ』と言ってやる」
吉村司祭をとおしてキリストの愛に触れ、これを苦難のうちにある同胞に伝えようと決意。福岡神学校へ（張聖子さんの証言）
5. 大阪教区桃谷講義所の開設 1932
 - ・ 執事按手 1938

6. 日本の戦争体制と大阪教区

- ・長期建設精神作興 大阪教区特別祈願式 1939.2.11

「……定刻に至るや、赤心と協和の象徴たる日の丸の国旗を奉持せる横田伝道師を先頭に、張執事の十字架、……厳かに入堂せり。……全員規律して、皇城遥拝をなし、遙かに皇軍将士日夜の労苦に満腔の感謝を献げ、併て皇運の長久を祈り奉った後、君が代二唱を斉唱し……、」

- ・紀元節祈祷 国家に呑み込まれた教会

- ・創氏改名

張準相（チャン・ジュンサン）→ 張本栄（はりもと・さかえ／チャン・ボニョン）

7. 真珠湾攻撃の日、未明の張執事の逮捕 1941.12.8

- ・100日に及ぶ拘禁と拷問／教会閉鎖

- ・釈放後、張執事は兵庫県の山中に入り、思索と瞑想の日々を過ごす

- ・日本聖公会名出保太郎統理による訓示 1941.12.16

「各自は須く全心全精を傾けて聖戦目的完遂のために熱禱を献げよ。また與へられたる地位に於て実践躬行、大政に翼賛せんことを務めよ。」

- ・戦争末期、当局による「クリスチャン狩り」があるとの情報を得て、和歌山県の僻地に隠忍の生活を送る。（ご家族による証言）

8. 日本の敗戦・朝鮮光復 1945.8.15

- ・「在日韓国人の子弟の教育の急務を思い、1946年から私財をなげうって鶴橋に韓国人小学校を創設、初代校長となる」（同証言）

- ・1954 自宅を開放して教会活動を再開

- ・1956 司祭按手

- ・1966.11.4 逝去

9. 聖ガブリエルの再建と日本聖公会の戦争責任の宣言

- ・1984 日本聖公会と大韓聖公会の正式交流始まる 聖ガブリエル教会の存在を重視

- ・1992 聖ガブリエル再建

- ・1996 日本聖公会総会「戦争責任の宣言」決議

- ・1997 大阪教区宣教協議会 咸仁公さんの発言

- ・なお残る天皇中心の国家観 八代斌助主教「日本の国柄の再認識」1957

10. おわりに——国家主義、排外主義の強まる今、張準相司祭の歩みは一つの貴い光

「イエスは言われた。『光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。』 ヨハネ 12:35